

2022年度 和泉短期大学 シラバス

授業科目名	保育内容の総合的指導法「環境」		教員氏名	松山 洋平		
科目ナンバー	Ⅲ-6-2-2 ③					
学年	2年		開講学期	前期		
授業形態	演習		単位数	1単位		
必修・選択	保育士・幼免必修		実務経験	幼稚園教諭	9年	
テーマ	乳幼児期に育みたい資質・能力の理解に基づき、保育所保育指針・幼稚園教育要領に示された保育内容「環境」のねらい及び内容の指導法を理解する。					
ディプロマポリシー	1.保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、幅広い教養を身に付け、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。				○	
	2.保育・福祉の専門的な知識・技能を修得し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身に付けている。				○	
	3.保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を実践できる。					
カリキュラムポリシー	科目群Ⅰ 教養	キリスト教主義の精神を踏まえて、保育と人権にかかわる人としての価値観を再構築する				
	科目群Ⅱ 原理	様々な世代を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕に基づく人間観を養う				
	科目群Ⅲ 知識・技能	子どもの心と体とそれを取り巻く環境を知り、共に成長するための様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につける				○
	科目群Ⅳ 実践	学んだ知識、技能、価値観を現場に即して臨機応変に実践できる体験を積み、キャリア形成の基礎を培う				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育環境について様々な具体的な資料を通して学び、子どもにとってふさわしい環境について学び、環境の側面から見た遊びの展開の方法を知る。 ・子どもの育ちと、年齢に応じた環境への関わりを理解し、保育環境の構成や保育者の役割について、具体的な場面を通じて実践的に学ぶ。地域の保育所や子育て支援のニーズを調査し、AIとして課題解決学習に取り組む。 ・実際に自然や身の回りにある素材を用いた遊びを体験することを通して、子どもが環境にかかわって遊ぶことの意味を知り、保育の計画を立案する。 ・保育者としての実務経験をもとに具体的な演習と理論とを組み合わせる指導法について授業を展開する。 					
授業の到達目標	・乳幼児期に育みたい資質・能力の理解に基づき、要領・指針に示された保育内容「環境」のねらい及び内容を理解し、具体的な保育場面を想定して保育内容を展開する方法を身に付ける。					
	・子ども個々の発達や学びの過程を理解し、実際に環境と関わる子どもの姿を理解する方法について学ぶ。					
	・子どもを取り巻く環境の重要性について、広義な側面と直接的・具体的に関わる身近な環境の側面とを共に理解し、子どもの生活にふさわしい保育を組み立てていくことを学ぶ。					
テキスト	『保育内容環境 あなたならどうしますか？』（酒井幸子ほか 萌文書林）					
参考書	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
ポートフォリオ	指定された課題に取り組み、ポートフォリオに綴じる					
往還型授業 (双方向授業)	授業内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点を、対話を通じて授業内で明確にする				○	
	リアクションペーパーを用いて、授業内での疑問等を対話形式にて対応する				○	
	リアクションペーパーの内容やテーマをICTを用いて授業内で受講者全員に公開・共有し、往還的理解を深める					
	実際に保育所や子育て支援に関わり、調査をもとに問題解決学習に当たる				○	
その他:						
成績評価方法	区分	割合(%)	内容			
	定期試験	0	実施しない			
	授業内課題参加度出席態度等	100	授業内評価。小テスト・各回の提出課題70%、授業態度と意欲30%。 (授業態度と意欲にはディスカッションへの参加、ワークシートの作成も含む。)			
	その他	0	なし			

授業概要と課題

第1回	テーマ 内容	オリエンテーション・保育内容「環境」の指導法とは	
	授業外学習	<予習>授業の概要を確認し、自身の身の回りの環境に関心をもつ。次回の授業内容について事前学習を行う。	55分
第2回	テーマ 内容	乳幼児期に育てたい資質・能力(保育の基本)と保育内容「環境」	
	授業外指示	<復習>テキスト2章と配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。	55分
第3回	テーマ 内容	環境による保育の考え方と個々の子どもへの理解	
	授業外指示	<復習>学習した内容に基づき、保育内容「環境」と子どもへの理解を振り返る。	55分
第4回	テーマ 内容	子どもの園での生活(遊び)と領域「環境」の関係(1)乳児・幼児・小学校との接続	
	授業外指示	<復習>テキストと配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。	55分
第5回	テーマ 内容	子どもの興味・関心と環境構成の関係(情報機器及び教材の活用の考え方を含む)	
	授業外指示	<復習>テキストと配布資料に基づき、子どもの興味・関心と環境構成について学習した内容を振り返る。	55分
第6回	テーマ 内容	遊びを展開する保育者の関わり〔フィールドワーク〕	
	授業外指示	<復習>テキストと配布資料に基づき、遊びを展開する際の保育者の関わりについて学習した内容を振り返る。	55分
第7回	テーマ 内容	子どもの発達と教材研究・指導案・模擬保育と評価の関係(1)長期的な計画(道具・素材の扱い・季節・行事)	
	授業外指示	<予習>教材研究を行うにあたり、身近な環境に興味・関心を持つようにする。	55分
第8回	テーマ 内容	子どもの発達と教材研究・指導案・模擬保育と評価の関係(2)短期的な計画(子どもの遊びの展開・次への手立て)	
	授業外指示	<予習>教材研究を行うにあたり、身近な環境に興味・関心を持つようにする。	55分
第9回	テーマ 内容	子どもの理解に応じた環境構成案の作成	
	授業外指示	<復習>テキストと配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。 <予習>事前準備として、実習日誌を読み返しておく。	55分

第10回	テーマ 内容	環境に関わる子どもの理解と保育記録(写真を用いた記録の実践・情報機器及び教材の活用)(プレゼンテーション)	
	授業外指示	<復習>テキストと配布資料、実習日誌に基づき、学習した内容を振り返る。	55分
第11回	テーマ 内容	教材研究・模擬保育と評価(フィールドワーク)	
	授業外指示	<復習>配布資料に基づきフィールドワークに臨み、学習した内容を振り返る。	55分
第12回	テーマ 内容	子どもを取り巻く「環境」の理解と保育実践方法との関係(フィールドワーク)	
	授業外指示	<復習>配布資料に基づきフィールドワークに臨み、学習した内容を振り返る。	55分
第13回	テーマ 内容	まとめ、これまでの学びを振り返る	
	授業外指示	<復習>保育内容の総合的指導法「環境」の授業を通して、子どもの育ちを支える環境について総括する。	55分

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、次回以降の授業時に口頭やプリントにてフィードバックを行う。

2022年度 和泉短期大学 シラバス

授業科目名	保育内容の総合的指導法「環境」		教員氏名	吉田 久仁子		
科目ナンバー	Ⅲ-6-2-2 ③					
学年	2年		開講学期	前期		
授業形態	演習		単位数	1単位		
必修・選択	保育士・幼免必修		実務経験	幼稚園教諭・保育士 26年		
テーマ	乳幼児期に育みたい資質・能力の理解に基づき、保育所保育指針・幼稚園教育要領に示された保育内容「環境」のねらい及び内容の指導法を理解する。					
ディプロマポリシー	1.保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、幅広い教養を身に付け、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。				○	
	2.保育・福祉の専門的な知識・技能を修得し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身に付けている。				○	
	3.保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を実践できる。					
カリキュラムポリシー	科目群Ⅰ 教養	キリスト教主義の精神を踏まえて、保育と人権にかかわる人としての価値観を再構築する				
	科目群Ⅱ 原理	様々な世代を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕に基づく人間観を養う				
	科目群Ⅲ 知識・技能	子どもの心と体とそれを取り巻く環境を知り、共に成長するための様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につける				○
	科目群Ⅳ 実践	学んだ知識、技能、価値観を現場に即して臨機応変に実践できる体験を積み、キャリア形成の基礎を培う				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育環境について様々な具体的な資料を通して学び、子どもにとってふさわしい環境について学び、環境の側面から見た遊びの展開の方法を知る。 ・子どもの育ちと、年齢に応じた環境への関わりを理解し、保育環境の構成や保育者の役割について、具体的な場面を通じて実践的に学ぶ。地域の保育所や子育て支援のニーズを調査し、AIとして課題解決学習に取り組む。 ・実際に自然や身の回りにある素材を用いた遊びを体験することを通して、子どもが環境にかかわって遊ぶことの意味を知り、保育の計画を立案する。 ・保育者としての実務経験をもとに具体的な演習と理論とを組み合わせる指導法について授業を展開する。 					
授業の到達目標	・乳幼児期に育みたい資質・能力の理解に基づき、要領・指針に示された保育内容「環境」のねらい及び内容を理解し、具体的な保育場面を想定して保育内容を展開する方法を身に付ける。					
	・子ども個々の発達や学びの過程を理解し、実際に環境と関わる子どもの姿を理解する方法について学ぶ。					
	・子どもを取り巻く環境の重要性について、広義な側面と直接的・具体的に関わる身近な環境の側面とを共に理解し、子どもの生活にふさわしい保育を組み立てていくことを学ぶ。					
テキスト	『保育内容環境 あなたならどうしますか？』（酒井幸子ほか 萌文書林）					
参考書	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
ポートフォリオ	指定された課題に取り組み、ポートフォリオに綴じる					
往還型授業 (双方向授業)	授業内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点を、対話を通じて授業内で明確にする				○	
	リアクションペーパーを用いて、授業内での疑問等を対話形式にて対応する				○	
	リアクションペーパーの内容やテーマをICTを用いて授業内で受講者全員に公開・共有し、往還的理解を深める					
	実際に保育所や子育て支援に関わり、調査をもとに問題解決学習に当たる				○	
	その他:					
成績評価方法	区分	割合(%)	内容			
	定期試験	0	実施しない			
	授業内課題参加度出席態度等	100	授業内評価。小テスト・各回の提出課題70%、授業態度と意欲30%。(授業態度と意欲にはディスカッションへの参加、ワークシートの作成も含む。)			
	その他					

授業概要と課題

第1回	テーマ 内容	オリエンテーション・保育内容「環境」の指導法とは	
	授業外学習	<予習>授業の概要を確認し、自身の身の回りの環境に関心をもつ。次回の授業内容について事前学習を行う。	55分
第2回	テーマ 内容	乳幼児期に育てたい資質・能力(保育の基本)と保育内容「環境」	
	授業外指示	<復習>テキスト2章と配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。	55分
第3回	テーマ 内容	環境による保育の考え方と個々の子どもへの理解	
	授業外指示	<復習>学習した内容に基づき、保育内容「環境」と子どもへの理解を振り返る。	55分
第4回	テーマ 内容	子どもの園での生活(遊び)と領域「環境」の関係(1)乳児・幼児・小学校との接続	
	授業外指示	<復習>テキストと配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。	55分
第5回	テーマ 内容	子どもの興味・関心と環境構成の関係(情報機器及び教材の活用の考え方を含む)	
	授業外指示	<復習>テキストと配布資料に基づき、子どもの興味・関心と環境構成について学習した内容を振り返る。	55分
第6回	テーマ 内容	遊びを展開する保育者の関わり〔フィールドワーク〕	
	授業外指示	<復習>テキストと配布資料に基づき、遊びを展開する際の保育者の関わりについて学習した内容を振り返る。	55分
第7回	テーマ 内容	子どもの発達と教材研究・指導案・模擬保育と評価の関係(1)長期的な計画(道具・素材の扱い・季節・行事)	
	授業外指示	<予習>教材研究を行うにあたり、身近な環境に興味・関心を持つようにする。	55分
第8回	テーマ 内容	子どもの発達と教材研究・指導案・模擬保育と評価の関係(2)短期的な計画(子どもの遊びの展開・次への手立て)	
	授業外指示	<予習>教材研究を行うにあたり、身近な環境に興味・関心を持つようにする。	55分
第9回	テーマ 内容	子どもの理解に応じた環境構成案の作成	
	授業外指示	<復習>テキストと配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。 <予習>事前準備として、実習日誌を読み返しておく。	55分

第10回	テーマ 内容	環境に関わる子どもの理解と保育記録(写真を用いた記録の実践・情報機器及び教材の活用)(プレゼンテーション)	
	授業外指示	<復習>テキストと配布資料、実習日誌に基づき、学習した内容を振り返る。	55分
第11回	テーマ 内容	教材研究・模擬保育と評価(フィールドワーク)	
	授業外指示	<復習>配布資料に基づきフィールドワークに臨み、学習した内容を振り返る。	55分
第12回	テーマ 内容	子どもを取り巻く「環境」の理解と保育実践方法との関係(フィールドワーク)	
	授業外指示	<復習>配布資料に基づきフィールドワークに臨み、学習した内容を振り返る。	55分
第13回	テーマ 内容	まとめ、これまでの学びを振り返る	
	授業外指示	<復習>保育内容の総合的指導法「環境」の授業を通して、子どもの育ちを支える環境について総括する。	55分

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、次回以降の授業時に口頭やプリントにてフィードバックを行う。